

Book Review



デンタルハイジーン BOOKS

見逃さない歯科衛生士養成 虎の穴

メンテナンス & リスクコントロールの視点

景山正登 著

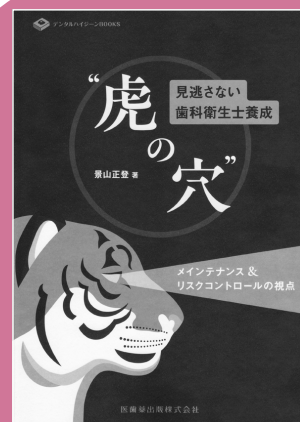


Reviewer

齊藤秋人 Akihito Saito

(東京都・齊藤歯科医院)

A4 判, 120 頁
カラー
定価 4,950 円
(本体 4,500 円+税 10%)
医歯薬出版刊



【虎の穴】——この言葉にタイガーマスクを連想するのは、60 歳を超えた世代かもしれません。悪役レスラーを育てる過酷な訓練所として描かれたその存在に、子ども心に「こんな怖い場所には行きたくない」と思った記憶が蘇る方もいるでしょう。

しかし現代では、この言葉は「厳しい訓練を課す場」「人材を育てる場」という意味で使われることが多くなっています。本書における【虎の穴】も、著者が序章で述べている通り、まさに「トレーニングセンター」としての位置づけです。プロフェッショナルな歯科衛生士を育てるための教本として、本書は最適な一冊です。

その根底には、「患者自身が“自分の健康は自分で守る”という意識をもてるよう支援できる歯科衛生士を育てたい」という、著者の強い願いがあります。定期的にメインテナンスケアで来院する患者の、わずかな変化に最初に気づくのは歯科衛生士であるからこそ、そうした「変化を見逃さない目」を養うことが、本書の大きなテーマです。

構成は序章から始まり、18 章の各論、そして終章で締めくくられています。

序章は総論としての位置づけで、1～3 章は「齲蝕」、4～7 章は「歯周病」に焦点を当てた内容。ここまでは一般的な教科書と大差ありませんが、8 章以降では「tooth wear」「歯根破折」「補綴装置」「粘膜病変」「舌圧痕」「唾液減少」など、多岐にわたる口腔内の問題を取り上げています。

各章には、著者の臨床経験から得られた口腔内写真や X 線画像が豊富に掲載されており、視覚的にも理解しやすい構成となっています。また、随所に登場する「怖くない虎のキャラクター」が読者の緊張を和らげ、学びの場に親しみやすさを加えています。

特筆すべきは、本書のカバー内側に記された「虎の穴 歯科衛生士の心得」です。

一つ、「何か変だな」「いつもと違う？」という異変を見逃さない観察眼を養う。

一つ、的確な判断と迅速な対応ができる実践力を身につける。

一つ、生涯にわたり口腔の健康を支える専門家を目指す。

この心得は、本書を読んだだけで自然に身につくものではありません。あくまで本書は教科書であり、「虎の穴養成所」を作るのは、日々の臨床現場を担う各歯科医院です。歯科衛生士や歯科医師が本書を手に取り、章ごとにレポートを作成し、それを院内ミーティングで議論する——そのような使い方を通じて、理解が深まることでしょう。

使い方はさまざまあると思いますが、著者はこの教本を通じて、多くの歯科医院が自らの「虎の穴養成所」を築くことを願っています。「悪役レスラーを育てる」場ではなく、「人に優しいタイガーマスク」を育てる場所として、この【虎の穴】を活用してみませんか？ そして、患者に優しく、異変を見逃さない歯科衛生士を、共に育てていきませんか？